

地域と甲佐高生の架け橋に 共に創る魅力ある学び舎

「町外出身者が多くを占める甲佐高校の生徒たちと地域で暮らす皆さんとをつなぐ架け橋になれたらうれしいですね」と話すのは、甲佐町地域おこし協力隊の一員として県立甲佐高校に併設された町公



治金 わかなさん
Harukane Wakana

はるかね わかな / 甲佐町地域おこし協力隊。町公営塾「あゆみ学舎」で講師を務めながら、甲佐高校の魅力化に取り組む。京都府出身。

〔大町区〕

営塾「あゆみ学舎」の運営に取り組む治金わかかなさん（大町区）。同塾は、同校の魅力化事業の一環として、生徒一人一人の夢を実現するために平成29年に町教育委員会が開塾した

もの。

昨年4月に本町に移住した治金さんは、生徒ごとの理解度や進路に合わせて学習を支援。教科の指導だけでなく、社会で必要なスキルの習得もサポートしており、地域の協力を得ながら「コミュニケーション能力や問題解決力を高め、自己実現の手助けにも取り組み」。

治金さんが町公営塾「あゆ

み学舎」の取り組みに惹かれたのは、教師や保護者とは異なる立ち位置で生徒たちと関わるができるのではと感じたからだという。

「大学在学中に後輩の学生たちをサポートする機会があり、一緒に悩みながら成長することの面白さを知りました。私自身、先生や親といった大人との対話を避けていた時期があり、高校生活をうまく過ごせなかったなという思いがあります。あの頃感じていた悩みや不安を同じように持つ生徒たちの支えとなれるようより身近な存在として生徒一人一人と向き合っていきたいです」と治金さん。

「甲佐高生には、目の前のことだけでなく、より広い視野を身に付けて欲しいと思っています。地域との交流を通して、さまざまなことに興味を持ち、理解を深めることの楽しさを知ってもらおうお手伝いをしながら、私も一緒に成長していければ」と話す治金さんは、未来を背負って立つ生徒たちに柔らかな笑顔で語り掛ける。

広報 こうさ

2021年（令和3年）4月号
通巻621号